資料１

金沢市食品ロス削減推進計画概要案について
パブリックコメントでのご意見と本市の考え方（回答）

１．募集期間：令和２年12月８日（火）～令和３年１月８日（金）
２．意　　見：意見の数　３件　　意見を寄せた方　２名

No.	ご意見の概要	本市の考え方
1	金沢市民に広く“フードロス”という考え方が定着することを願っている。 家庭で食材を使い切るレシピの提案や、フードドライブやフードシェアリングアプリの活用、小中学校での児童・生徒などへの啓蒙活動も含めて、性別や世代を超えて意識が高まるよう、できることから私も始めてみたいと思う。	本市では、市民が食品ロス問題に関心を持ち、その削減のため行動できるよう、食品ロス発生抑制のための普及啓発として、食材の使い切りレシピを学べる料理教室を実施するほか、子どもへの啓蒙、出前講座の実施など幅広い世代への周知啓発に取り組んで参ります。 また、フードドライブ事業の拡充やフードシェアリングアプリ等の活用を市民、事業者に向け提案するなど、市民・事業者・市の相互の連携協力により、食品ロス削減を推進して参ります。
2	市の目指す姿として掲げている「食べ物の“もったいない”がないまち」に賛同する。 現在でもさまざまな取り組みを実施されていると思うが、どこか自分事になっていない市民も少なくないと思う。（自分も含めて）	ひとりひとりが食品ロス問題について理解を深め、食べ物を廃棄することに対する“もったいない”という気持ちを再認識するとともに、市民・事業者・市の相互の連携協力による食品ロスの削減の進んだまちの実現を目指します。 市民がこの問題を自分事として捉え、食品ロスを発生させない行動に移すことができるよう、食品ロス記録モニター事業等、食品ロス発生抑制のための普及啓発を今後、継続して実施して参ります。
3	広報・周知という点では、より臨場感のある表現をしてもよいのかと思いました。（食品ロスが多くなることで自分にどんなデメリットがあるのかを可視化するなど） 人間は、自分が損することを避ける傾向にあるので、実際に行動に移してもらう起爆剤として、その心理を利用した表現なども一部取り入れてもいいのではないかと思う。	市の取組の広報や食品ロス問題についての周知啓発を実施するにあたり、ご意見を参考に、市民にとってのメリット・デメリットの可視化といった要素を取り入れ食品ロス削減の行動に導く等、その方法や表現を工夫して参ります。